

非医療系大学生の男性看護師に対する期待感と男性看護師との 接触経験・性役割意識との関連

(男性看護師/期待感/接触経験/性役割意識/非医療系大学生)

南前直都¹⁾・福岡理英²⁾・内田宏美³⁾

Relationship Between the Expectation for Male Nurses and Involved Experience With Male Nurses and Gender Role Attitude on Non-Medical University Students

(male nurse / expectation / involved experience / gender role attitude / non-medical university student)

Naoto MINAMIMAE, Rie FUKUOKA, Hiromi UCHIDA

【要旨】 男性看護師に対する期待感と性別、性役割意識、男性看護師との接触経験との関連を明らかにするために、A大学の医学部以外の学部の学生計297名に無記名自記式質問紙調査を実施し、回答のあった男子学生159名と女子学生138名を分析した。男子学生は女子学生より平等主義的性役割態度スケール得点が有意に低く、性役割態度について伝統主義的であった。男子学生、女子学生共に、女性看護師より男性看護師に対する期待得点が高い傾向にあった。男性看護師との接触頻度と男性看護師に対する期待得点に相関はなかった。男性看護師との接触頻度の多い群は、少ない群に比べて、男性看護師への期待得点と女性看護師への期待得点との差が少ない傾向が見られた。よって、男性看護師との接触が多くなるほど男性看護師と女性看護師への期待の差が小さくなり、性別にとらわれない看護師像が作られる可能性が示唆された。

I. はじめに

2017(平成29)年の厚生労働省の統計資料¹⁾によれば、2016年度の男性看護師は84,193人で、就業看護師全体の7.3%を占めている。2006年度の男性看護師が全体の4.7%であり、この10年でわが国の男性看護師の数は倍増し、一般病棟にも配置されるようになってきている。大山らは、2006年の調査で、入院患者の9割以上が男性看護師を知っていると報告しているが²⁾、現在ではさらに男性看護師の認知は高まってきていると考えられる。一方で、男性女性共に、女性看護師からのケアを希望している人が多く³⁾、男性看護師の8割が羞恥心を伴うケアを拒否された経験があるとされる⁴⁾。他方、男性看護師

から良いケアを受けた女性患者は、信頼が高まることが報告されている^{2,5)}。このように、男性看護師は性別を理由にケアを断られる一方で、実際の関わりを通して信頼を得られる等、患者の認識や期待感は、未だ確立していない。

上記のように、看護師の性別は、ケアを受ける患者の信頼や、ケアに対しての受け入れにおいて大きく影響しているように考えられる。しかし、世論調査で性役割意識の変化が指摘されている⁶⁾ことから、男性看護師に対する受け入れにも変化もたらされていく可能性がある。本研究では、男性看護師が患者や社会から看護専門職としての評価と信頼を得ていくための課題を探るための基礎的データを得ることを目的とした。医療に携わる立場でない非医療系大学生を対象にすることで、患者になる立場から男性看護師に対する認識をとらえられると考えた。

II. 目的

男性看護師が患者や社会から看護専門職としての評価

¹⁾ 鳥取大学医学部附属病院看護部

Department of Nursing, Tottori University Hospital

²⁾ 島根大学医学部地域・老年看護学講座

Department of Community Health and Gerontological Nursing,
Shimane University Faculty of Medicine

³⁾ 天理医療大学医療学部

Tenri Health Care University

と信頼を得ていくための課題を探るための基礎的データを
を得る。

III. 研究方法

1. デザイン

無記名自記式質問紙法による量的関連探索研究。

2. 対象

A大学の医学部以外の文系・理系の計5学部の1～4年生384名。5学部4学年を偏りなく抽出できるよう、ほとんどの学生が履修している必修科目での依頼を行うことで研究対象者の偏りを最小限とした。

3. 調査期間

2018年7月。

4. 調査内容

- 1) 基本属性：性別、学部名、学年。
- 2) 背景：医療への関心、男性看護師への関心・関わり経験、関わった回数（以下接触回数）。接触経験において、接触回数を「1回」、「数回」、「5、6回」、「それ以上」で回答してもらい、「1回」、「数回」を「接触少ない群」、「5、6回」、「それ以上」を「接触多い群」とした。
- 3) 男性・女性看護師に対する期待感：飯塚らの「患者信頼スケール—家族用」28項目、5件法（全くその通りだと思う5点～ぜんぜんそう思わない1点）を使用した。「看護師は自分で引き受けたことは必ずしてくれる」、「看護師は筋の通ったことを言う」等の項目からなり、得点が高いほど学生から看護師への期待が高い。
- 4) 性役割意識：鈴木らの「平等主義的性役割態度スケール短縮版」15項目、5件法（全くその通りだと思う5点～ぜんぜんそう思わない1点）を使用した。「女性はこどもが生まれても仕事をした方がよい」、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てることが非常に大切である」等の項目から構成され、得点が高いほど性役割に対して平等主義的態度である。本研究では、45点以上を「平等主義（性役割に対して平等な態度をとる）群」、44点以下を「伝統主義（性役割に対して平等でない態度をとる）群」とした。

5. 分析方法

以下の検定を行った。有意確率は5%未満とした。

- 1) 平等主義的性役割態度スケール得点（以下性役割態

度得点）の総得点と患者信頼スケール得点（以下看護師への期待得点）の総得点の関連（Spearmanの相関係数）。

- 2) 学部及び性別と看護師への期待得点、性役割態度得点の総得点・項目別得点の中央値の差の検定（Munn-WhitneyのU検定）。
 - 3) 男性看護師からのケア経験の有無と看護師への期待得点の総得点の中央値の差の検定（Munn-WhitneyのU検定）。
 - 4) 医療への関心の有無と看護師への期待得点の総得点の中央値の差の検定（Munn-WhitneyのU検定）。
- #### 6. 倫理的配慮
- 1) 選定した科目の科目責任教員に調査の目的、方法、調査内容について予め提示し、授業開始時または終了時に質問紙を配布する許可を得て実施した。
 - 2) 対象者には、研究の目的と方法、本研究への協力は任意であり、協力しなくても不利益は受けないこと、調査は無記名で個人が特定されることはないこと、本研究以外にはデータは使用しないこと等について、口頭及び質問紙に添付した文書で説明して理解と協力を得た。
 - 3) 同一大学での調査のため、対象者が推定されないよう質問紙は無記名とし、調査項目に学年は設定しなかった。
 - 4) 研究参加への任意性を保証するために、回収箱を教室出入口に設置したのち、退出した。
 - 5) 投函をもって、研究参加の同意とした。

IV. 結果

1. 対象者の概要

回収数347、回収率90.4%、有効回収数297で、有効回答率85.6%であった。男子学生159名、女子学生138名で、法文学部49名、教育学部117名、総合理工学部38名、生物資源科学部24名、人間科学部69名であった。96%の学生が男性看護師がいることを知っており、男性看護師と接触経験があったのは26%であった。性役割態度得点は、男子学生は平均56.9±8.60点、女子学生は平均60.6±7.34点で、男子学生の方が有意に伝統主義的であった ($p<0.01$)。すべての学部間において、医療への関心、男性看護師への関心、接触経験に有意差はなかった。男性看護師への期待得点の総合点および女性看護師への期待得点の総合点は、男子学生と女子学生間および医療への関心の有無において有意差はなかった。

2. 性役割態度得点の総得点と看護師への期待得点の総得点の関連

性役割態度得点の総得点と男女看護師への期待得点の各項目の得点および総合点について、すべての項目で相関はみられなかった。

3. 男女学生別男性看護師・女性看護師への期待得点の比較 (表1、表2、表3)

男性看護師に対する期待得点が高い項目は28項目中19項目で、うち「看護師は自分が引き受けたことは必ずしてくれる」、「看護師は筋の通ったことを言う」、「看護師は腕が良い」、「看護師はいったん約束したことはたいてい守る」、「看護師は専門知識にたけている」、「看護師は言うこととやることが一貫している」、「看護師はど

んな処置でも自信をもって行っている」、「看護師は難しい医療についてわかりやすく説明してくれる」の8項目は男女学生ともに、女性看護師に対する期待得点より、男性看護師に対する期待得点の方が有意に高かった。

女性看護師に対する得点が高い項目は7項目で、うち「患者は看護師に話を聞いてもらおうとほっとする」は男女学生ともに、男性看護師より、女性看護師に対する期待得点の方が有意に高かった。

「患者は将来の見通しが立たないときには看護師に相談してみようと思う」の項目は、男性看護師に対する期待得点は男子学生の方が女子学生より有意に高く、女性看護師に対する期待得点は男子学生より女子学生の方が有意に高かった。

表1 男女学生の男性看護師に対する期待得点に有意差のあった項目

項目	男女別	男性看護師に対する平均±SD	女性看護師に対する平均±SD	有意確率
看護師は自分が引き受けたことは必ずしてくれる	男子学生	3.7 ± 0.83	3.5 ± 0.89	**
	女子学生	3.9 ± 0.68	3.7 ± 0.77	**
看護師は筋の通ったことを言う	男子学生	3.6 ± 0.79	3.4 ± 0.83	**
	女子学生	3.7 ± 0.73	3.4 ± 0.80	**
看護師はどんな処置でも自信をもって行っている	男子学生	3.6 ± 0.75	3.5 ± 0.84	**
	女子学生	3.6 ± 0.78	3.4 ± 0.85	**
看護師はいったん約束したことはたいてい守る	男子学生	3.6 ± 0.72	3.5 ± 0.85	*
	女子学生	3.7 ± 0.70	3.5 ± 0.78	*
看護師は専門知識にたけている	男子学生	3.7 ± 0.80	3.6 ± 0.85	**
	女子学生	3.9 ± 0.72	3.8 ± 0.80	*
看護師は言うこととやることが一貫している	男子学生	3.6 ± 0.81	3.5 ± 0.81	**
	女子学生	3.6 ± 0.71	3.5 ± 0.76	**
看護師は腕がいい	男子学生	3.6 ± 0.79	3.4 ± 0.80	**
	女子学生	3.7 ± 0.78	3.4 ± 0.75	**
看護師は難しい医療についてわかりやすく説明してくれる	男子学生	3.6 ± 0.77	3.4 ± 0.92	**
	女子学生	3.7 ± 0.77	3.6 ± 0.81	**

Munn-WhitneyのU検定 SD: standard deviation $p < 0.05$ * $p < 0.01$ **
網掛けは有意差のあった項目を示す

表2 男女学生の女性看護師に対する期待得点に有意差のあった項目

患者は看護師に話を聞いてもらおうとほっとする

	男性看護師に対する平均±SD	女性看護師に対する平均±SD	有意確立
男子学生	3.6 ± 0.85	3.7 ± 0.82	**
女子学生	3.5 ± 0.75	4.0 ± 0.72	**

Munn-WhitneyのU検定 SD: standard deviation $p < 0.05$ * $p < 0.01$ **
網掛けは有意差のあった項目を示す

表3 男女学生の男性看護師・女性看護師それぞれに対する期待得点に有意差のあった項目

患者は将来の見通しが立たないときには看護師に相談してみようと思う

	男性看護師に対する平均±SD	女性看護師に対する平均±SD	有意確率
男子学生	3.4 ± 0.89	3.3 ± 0.96	**
女子学生	3.3 ± 0.81	3.4 ± 0.84	*

Munn-WhitneyのU検定 SD: standard deviation $p < 0.05$ * $p < 0.01$ **
網掛けは有意差のあった項目を示す

表4 男性看護師との接触頻度別にみた、男女看護師に対する期待得点に有意差のあった項目

項目	接触多い	有意確率	接触少ない	有意確率
男性看護師は自分が引き受けたことは必ずしてくれる	3.8 ± 0.80	*	3.8 ± 0.76	*
女性看護師は自分が引き受けたことは必ずしてくれる	3.3 ± 1.09		3.6 ± 0.87	
男性看護師はいったん約束したことはたいてい守る	3.8 ± 0.75	*	3.6 ± 0.68	*
女性看護師はいったん約束したことはたいてい守る	3.3 ± 1.00		3.4 ± 0.80	
病棟の男性看護師は誰でも患者のことや患者の世話についてよく知っている	3.9 ± 0.77	*	3.6 ± 0.77	n.s.
病棟の女性看護師は誰でも患者のことや患者の世話についてよく知っている	3.6 ± 0.73		3.5 ± 0.95	
男性看護師は筋の通ったことを言う	3.7 ± 0.77	n.s.	3.5 ± 0.81	**
女性看護師は筋の通ったことを言う	3.6 ± 0.96		3.2 ± 0.77	
患者が男性看護師にそばにいてほしいときはいつでもいてくれる	3.1 ± 0.94	n.s.	3.1 ± 0.90	*
患者が女性看護師にそばにいてほしいときはいつでもいてくれる	3.3 ± 1.17		2.9 ± 1.06	
患者は男性看護師に話を聞いてもらおうとほっとする	3.4 ± 0.95	n.s.	3.6 ± 0.68	*
患者は女性看護師に話を聞いてもらおうとほっとする	3.8 ± 0.81		3.7 ± 0.91	

Munn-WhitneyのU検定 n.s.: not significant $p < 0.05$ * $p < 0.01$ **
網掛けは有意差のあった項目を示す

4. 男性看護師との接触頻度別にみた男性看護師・女性看護師に対する期待得点の比較 (表4)

男性看護師に対する期待得点は、全項目について接触頻度の多い群 (n=22) と少ない群 (n=56) との間に有意差はなかった。一方、男性看護師との接触頻度による男・女看護師に対する期待得点の比較では、男性看護師との接触が多い群において、「看護師は自分が引き受けたことは必ずしてくれる」、「看護師はいったん約束したことはたいてい守る」、「病棟の看護師は誰でも患者のことや患者の世話についてよく知っている」の3項目で、女性看護師に対する期待得点より男性看護師に対する期待得点が有意に高かった。また、接触が少ない群では、「看護師は自分が引き受けたことは必ずしてくれる」、「看護師はいったん約束したことはたいてい守る」、「看護師は筋の通ったことを言う」、「患者が看護師にそばにいてほしいときはいつでもいてくれる」の4項目で、女性看護師に対する期待得点より男性看護師に対する期待得点が有意に高く、「患者は看護師に話を聞いてもらおうとほっとする」は、男性看護師に対する期待得点より女性看護師に対する期待得点が有意に高かった。

V. 考 察

非医療系大学の性役割態度得点について、男子学生、女子学生共に平均が45点より高く、全体としては性役割に関して平等的である人が多い。一方、女子学生より男子学生の方が性役割態度が有意に伝統主義的であったことから、現在でも社会的に性役割態度が平等主義となっているとは言い切れないと考えられる。特に、接触経験の少ない群で、男性看護師に対して有意に期待得点

が高かった項目は、一般市民の中の「男性看護師」という抽象的なイメージと関連していることが考えられる。その一方で、看護師の性別による期待得点の総合点に差はなかったことや、男性看護師に対する期待得点が有意に高かった項目が7項目あることから、非医療系大学生は、先行研究のように男性看護師が「性別」を理由に否定的に捉えられているわけではないことが示された。このことは、先行研究から本研究に至るまでの数年間の社会の変化の中で、男性看護師の人数が増えたり¹⁾、テレビ番組などのメディアで男性看護師を知る機会が増えたりといった、男性看護師を知る機会が増えたこと、男女共同参画の考えが、先行研究が行われた頃と比較して浸透している⁶⁾ ことなどが理由として考えられるのではないだろうか。

また、男性看護師との接触頻度の多い学生は、看護師の性別による期待の差が少ない傾向があり、且つ、男性看護師が患者をよく知り、責任をもって看護していると受け止めていた。このことは、患者との信頼の構築には、男性看護師による適切なケアの積み重ねが必要であるとする池田ら⁵⁾の先行研究と類似する結果となった。本研究を通して見出された男性看護師の評価の課題として、個々の男性看護師の日常の責任ある看護実践が、社会の人々の男性看護師に対する正当な評価に繋がっていく可能性が示唆された。

研究の限界

A大学という1地方に限定された調査であり、結果には自ずと地域文化の影響が反映されている。また、本研究では潜在的な性役割意識を計る必要があったが、今回用いた平等主義的性役割態度スケール短縮版は、生活での具体的な行動から性役割態度を評価するものであった

ため、看護師への期待と性役割を比較することが困難であった。

VI. 結 論

A大学の医学部以外の1～4年生男子学生159名、女子学生138名の質問紙調査から、次の結果を得た。

1. 性役割態度は、男子学生の方が女子学生より有意に伝統主義的であった。
2. 男・女学生ともに、女性看護師より、男性看護師に対する期待得点が高い傾向にあった。
3. 男性看護師との接触頻度と男性看護師に対する期待得点に関連はなかった。
4. 男性看護師との接触頻度の多い方が、男性看護師への期待得点と女性看護師への期待得点との差が少なかった。

なお、本論文は、島根大学医学部看護学科卒業研究の成果を日本看護研究学会中国・四国地方会第32回学術集会で発表し、加筆したものである。

謝 辞

本研究にご協力くださったA大学の学生の皆様に深謝いたします。

文 献

- 1) 厚生労働省. 平成28年衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況. <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/16/dl/gaikyo.pdf> (アクセス日 2018.5.20).
- 2) 大山祐介, 戸北正和, 小川信子, 他. 男性看護師に対する女性患者の認知度とニーズに関する研究. 保健学研究2006; 19(1): 13-9.
- 3) 吉川 圭, 河合晃子. 一般病棟における患者の男性看護師によるケアに対する感じ方, 第45会日本看護学会論文集(看護管理)2015; 366-9.
- 4) 長岡慎也, 箕越功浩, 井上真奈美. 「羞恥心を伴う看護・ケア」における困難さと将来展望の現状について - 男性看護師の属性に着目して -. 山口県立大学学術情報看護栄養学部紀要 2017; 10: 123-8.
- 5) 池田一貴, 内田宏美, 木村真司, 他. 男性看護師の看護ケアに対する患者の信頼 - 患者の性差による比較 -. 島根大学医学部紀要 2013; 36: 61-6.
- 6) 内閣府男女共同参画局. 3-3 既存調査結果. http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/dansei_ishiki/pdf/chapter_3_3.pdf (アクセス日 2018.5.17).
- 7) 大上真礼, 寺田悠希. 「女子力」と「男らしさ」「女らしさ」に違いはあるか: 測定後の変遷に着目して. 田園調布学園大学紀要 2016; 11: 169-88.

(受付 2019年8月9日)

